

〈だいこん〉 センチュウ類

1. ネグサレセンチュウが寄生するとダイコンの表面に白斑ができ、後に褐変しソバカス状になり品質が低下する。
2. 主としてキタネグサレセンチュウが寄生する。
3. マリーゴールドを3か月以上栽培する。栽培期間は4月～8月。畦間30～40cmにすじまき又は点播。栽培後は畑にすき込む。
4. マリーゴールドの効果は根に含まれる殺線虫成分のため侵入した線虫が死亡することによると考えられている。
5. マリーゴールドの効果はマリーゴールドの種類により異なり、アフリカン種に比べブレンチ種の効果が高い。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディ・トラベックス油剤	I:8A・I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

〈だいこん〉 ネコブセンチュウ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ネマトリンエース粒剤	I:1B	は種前	1回	全面土壌混和 全面散布後土壌混和 1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
ビーラムプライムフロアブル	F:7(C2)	は種前	1回	
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

〈だいこん〉 ネグサレセンチュウ

1. ネグサレセンチュウが寄生するとダイコンの表面に白斑ができ、後に褐変しソバカス状になり品質が低下する。
2. 主としてキタネグサレセンチュウが寄生する。
3. マリーゴールドを3か月以上栽培する。栽培期間は4月～8月。畦間30～40cmにすじまき又は点播。栽培後は畑にすき込む。
4. マリーゴールドの効果は根に含まれる殺線虫成分のため侵入した線虫が死亡することによると考えられている。
5. マリーゴールドの効果はマリーゴールドの種類により異なり、アフリカン種に比べブレンチ種の効果が高い。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ネマキック粒剤	I:1B	は種前	1回	全面土壌混和 全面土壌混和 全面散布後土壌混和 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ネマトリンエース粒剤	I:1B	は種前	1回	
ビーラムプライムフロアブル	F:7(C2)	は種前	1回	
ガスタード微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	
バスアミド微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

#### 〈だいこん〉 アブラムシ類

1. 夏期乾燥が続くと発生が多いので、この時期の発芽初期から有翅アブラムシ防除に努める。
2. 抜き菜を食用にする場合は使用基準に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
アドマイヤーフロアブル	I:4A	収穫14日前まで	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	収穫前日まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	1回	散布
アルバリン粒剤	I:4A	は種時	1回	播溝土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	は種時	1回	播溝土壌混和
オルトラン粒剤	I:1B	は種前	1回	作条散布
アドマイヤー1粒剤		は種時	1回	播溝土壌混和
モスピラン粒剤	I:4A	は種時	1回	播溝土壌混和
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
エコピタ液剤 ※2		収穫前日まで	-	散布
オレート液剤 ※3	H:0	発生初期～収穫前日ま	-	散布
サンクリスタル乳剤 ※4		収穫前日まで	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(いちごを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)」の登録薬剤

#### 〈だいこん〉 キスジノミハムシ

1. 高温乾燥が続くと発生が多い。特に夏まきダイコンに被害が多い。
2. 幼虫はダイコンの根部を食害してナメリダイコンの原因となるので初期防除を徹底する。
3. 抜き菜を食用にする場合は使用基準に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
アルバリン粒剤	I:4A	は種時	1回	播溝土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	は種時	1回	播溝土壌混和

フォース粒剤	I:3A	は種時 は種時及び生育期(但し、 収穫21日前まで)	1回	播溝土壌混和 は種時:作条土壌混和、 作物生育中:株元土壌 混和
ダイアジノン粒剤5	I:1B		2回以内	

〈だいこん〉 ハモグリハエ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布

〈だいこん〉 ナモグリハエ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
マラソン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	6回以内	散布

〈だいこん〉 タネハエ

1. 有機質肥料や未熟堆肥を施すと発生が多いので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン粒剤	I:4A	生育期(但し、収穫30日前 まで)	1回	散布
スタークル粒剤	I:4A	生育期(但し、収穫30日前 まで)	1回	散布
フォース粒剤	I:3A	は種時	1回	播溝土壌混和
ダイアジノン粒剤5	I:1B	は種時	1回	全面土壌混和又は作条 土壌混和

〈だいこん〉 コナガ

1. 全国的に合成ピレスロイド剤の効果が低下している。
2. 発生回数が多く、春から初冬まで発生するので注意する。
3. 幼苗期の被害に特に注意する。
4. 薬液は裏葉に十分かける。
5. 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。
6. 抜き菜を食用にする場合は使用基準に注意する。
7. コテツフロアブルは生育初期に薬害が出るおそれがあるので注意する。
8. 野菜類のコナガの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	収穫7日前まで	3回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	収穫7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫14日前まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫7日前まで	3回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫21日前まで	2回以内	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫21日前まで	2回以内	散布
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
フィールドマストフロアブル	I:4E	収穫3日前まで	2回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫14日前まで	2回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	1回	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
ボタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 ハイマダラノメイガ

1. 8～9月の高温、乾燥の時や早まきのものに多発し芯部に食入するので早期発見に努める。
2. 「ダイコンシンクイムシ」はハイマダラノメイガの別称である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エスマルクDF	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫21日前まで	2回以内	散布

ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫7日前まで	2回以内	散布
フローバックDF	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
マトリックフロアブル	I:18	収穫7日前まで	3回以内	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 アオムシ

1. コテツフロアブルは生育初期に薬害が出るおそれがあるので注意する。  
2. 野菜類のアオムシの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	収穫14日前まで	2回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫21日前まで	2回以内	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫21日前まで	2回以内	散布
バダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫7日前まで	3回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 ヨトウムシ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタブロン乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	散布
トルネードエースDF	I:22A	収穫21日前まで	2回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫14日前まで	2回以内	散布
プロフレアSC	I:30	収穫前日まで	3回以内	散布
マトリックフロアブル	I:18	収穫7日前まで	3回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 ハスモンヨトウ

1. 老齢幼虫に対する効果は低いので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタブロン乳剤	I:15	収穫14日前まで	3回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 ネキリン類

1. 幼虫の捕殺に努める。
2. 4月～6月と9月～10月の被害が大きい。
3. 中、老齢幼虫は夜間、株元を切断する。
4. 抜き菜を食用にする場合は使用基準に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガードベイトA	I:3A	は種時～生育初期	4回以内	株元散布
デナボン5%ベイト	I:1A	収穫30日前まで	4回以内	株元散布
カルホス微粒剤F	I:1B	は種時～生育初期(但し、 収穫30日前まで)	1回	土壌表面散布土壌混和 処理
ダイアジノン粒剤5	I:1B	は種時	1回	全面土壌混和又は作条 土壌混和

〈だいこん〉 オオタバコカ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
デルフィン顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
チューンアップ顆粒水和剤 ※2	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈だいこん〉 カブラハチ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫3日前まで	3回以内	散布
プレバソソフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
プロフレアSC		収穫前日まで	3回以内	散布

〈だいこん〉 カブラハチ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ハチハチ乳剤	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫14日前まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	1回	散布

〈だいこん〉 萎黄病

1. 萎黄病菌の寄生作物はキャベツ、カリフラワー、ハクサイ、コマツナ、カブ、ブロッコリー、タイサイ、ダイコンである。
2. 土壌温度が27～30℃の高温期に多いので注意する。
3. 発病地は寄生作物の栽培を4～5年間避ける。
4. カリ肥料が不足しないよう管理する。
5. あぶらな科野菜の萎黄病の項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に 散布して土壌と混和す る
バスアミド微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に 散布して土壌と混和す る

〈だいこん〉 亀裂褐変症(リゾクニア菌)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	は種前	1回	全面土壌混和
リゾレックス粉剤	F:14(F3)	は種前	1回	全面土壌混和

〈だいこん〉 黒斑細菌病

1. 黒斑細菌病の病原細菌は傷口から侵入するので、キスジノミハムシ幼虫や、センチュウ、強風、暴風雨などにより傷を受けないようにする。
2. 発病畑はアブラナ科野菜の連作を避け、低湿地での栽培も避ける。
3. カスミンボルドーの薬害軽減には、炭酸カルシウム剤の添加が有効だが、収穫間際の添加は避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
銅パーシソ水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
カセット水和剤	F:24(D3)・F:31(A4)	収穫14日前まで	3回以内	散布

〈だいこん〉 黒斑病

1. 黒斑病は10月下旬ごろから発病が多くなり、雨が多いとき多発する。
2. 肥料切れすると発病が激しくなるので、十分に施肥する。
3. 薬液には展着剤を加用し、葉の裏までていねいに散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ボルドー液用生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
ボルドー液用粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
ボルドー液用粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
農薬用(ボルドー液用)粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
粉状丹礬	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅(粉)	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅(粉状)	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する

#### <だいこん> 白さび病

1. 病原菌は“さび病菌”ではなく、ピシウム菌・疫病菌と同様、藻菌類に属する。
2. 白さび病が多発するとワッカ症を併発することがある。
3. アブラナ科野菜の連作を避ける。
4. コサイド3000は薬害を生じることがあるので、クレフノンを加用すること。特に幼苗期や高温時の散布は薬害を生じやすいので避けること。なお、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生ずる場合があるので留意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
コサイド3000	F:M01(M)	-	-	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫45日前まで	3回以内	散布
ピシロックフロアブル	F:U17(U)	収穫前日まで	2回以内	散布
ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫7日前まで	4回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫3日前まで	3回以内	散布
ユニフォーム粒剤	F:4(A1)・F:11(C3)	は種前	1回	作条土壌混和

#### <だいこん> 苗立枯病(リゾクトニア菌)

1. 発芽～幼苗期に降雨が多いと多発する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
パンタック水和剤75	F:7(C2)	は種前	1回	種子粉衣

#### <だいこん> 軟腐病

1. 秋期は、は種期を遅くするほど発病は少なくなる。
2. 薬剤の散布は株の地際部を重点に行う。
3. 野菜類の軟腐病の項も参照する。
4. カスミンボルドーは薬害を生じることがあるので、クレフノンを加用すること。特に幼苗期や高温時の散布は薬害を生じやすいので避けること。なお、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生ずる場合があるので留意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
カッパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
カセット水和剤	F:24(D3)・F:31(A4)	収穫14日前まで	3回以内	散布
スターナ水和剤	F:31(A4)	収穫14日前まで	5回以内	散布
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫7日前まで	4回以内	散布
マスタピース水和剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
ICボルドー66D ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000 ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ドイツボルドーA ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ボルドー ※1	F:M01(M)	-	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

#### <だいこん> ハーティシウム黒点病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
ガスタード微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

ソイリン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のチリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。

#### 〈だいこん〉 べと病

- べと病は9月下旬ごろから発病が多くなり、雨が多いとき多発する。
- 肥料切れすると発病が激しくなるので、十分に施肥する。
- 薬液には展着剤を加用し、葉の裏までていねいに散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ボルドー液用生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
ボルドー液用粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
ボルドー液用粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
農薬用(ボルドー液用)粉末生石灰			-	ボルドー液を調製して均一に散布する
粉状丹礬	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅(粉)	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
硫酸銅(粉状)	F:M01(M)		-	ボルドー液を調製して均一に散布する
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
ドイツボルドーA ※1	F:M01(M)	-	-	散布
ボルドー ※1	F:M01(M)	-	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

#### 〈だいこん〉 ワッカ症

- 病原菌は“さび病菌”ではなく、ピシウム菌・疫病菌と同様、藻菌類に属する。
- 白さび病が多発するとワッカ症を併発することがある。
- アブラナ科野菜の連作を避ける。
- カスミンボルドーの薬害軽減には、炭酸カルシウムの添加が有効だが、収穫間際の添加は避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
銅シン水中和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫45日前まで	3回以内	散布
ピシロックフロアブル	F:U17(U)	収穫前日まで	2回以内	散布
ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫7日前まで	4回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫3日前まで	3回以内	散布